

2026年度事業計画書

(2026年4月1日～2027年3月31日)

【募金収益】(目標1900万円／前年度予算1900万円)

当事業団を支える財源は「愛の募金」などの受取寄付金です。年間を通して、児童生徒の募金活動や地域のチャリティーイベント、企業や団体が職場で行った募金など、県民の皆さまからの寄付金を広く受け付けています。

集まった浄財は「希望の翼」「希望号」をはじめ、障害者や交通遺児などに対する支援、福祉活動及び文化芸術活動への助成などに役立てられます。当年度の目標は前年度と同じ1900万円を見込みます。

【公1事業】(障害者、交通遺児などに対する健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための支援事業)＝予算合計115万円／前年度予算475万円)

(1)「旅行体験型交流会」(10月)

障害者福祉の向上を目的に、原則として毎年交互に実施している障害者の旅行企画「希望の翼(海外)」「希望号(国内)」について、近年の外部環境の変化に対応し事業を安定的に継続するため、2026年度から隔年開催(2年に1回)へ変更します。

変更に伴い、26年度は旅行を休止し、「体験型交流会」を開催します。映像を使った旅行体験や、高齢者や障害者向けの最新バリアフリー旅行事情の解説、意見交換などを盛り込んだ催しとすることで、参加者に交流の場を提供します。事業費は40万円を見込みます。

「希望の翼(海外)」「希望号(国内)」は当事業団の中核事業として親しまれてきましたが、参加者の高齢化による安全管理のさらなる強化策が求められています。交通費・宿泊費の高騰で旅行代金が上昇し、参加者の負担増も課題です。またコロナ禍以降、募金額の減少傾向がみられ、当事業団の財務状況も厳しさを増しています。

開催間隔を空けることで、1回当たりの企画内容の精査と準備期間の確保を図り、参加者がより安全に満足度の高い体験を享受できるよう事業の再構築を進めます。余剰資金を公益充実資金として積み立て当事業団の財政的負担を軽減し、公益財団法人としての事業継続性を担保します。

(2) ホーリーの元気サポーター (10~12月)

サッカーJ1水戸ホーリーホックと協力し、ホームタウンの児童養護施設の子どもたちを水戸のホームゲームに招待する事業です。2025年度は施設の引率者らを含め約200人が参加し、ホーム最終戦を観戦しました。事業費は35万円を見込みます。

(3) 交通遺児などへの援護事業 (8月)

自動車事故対策機構(NASVA)と連携して交通遺児などのレクリエーション活動を支援する事業を行います。2025年度は交通遺児とその家族を国営ひたち海浜公園(ひたちなか市)で開かれた野外音楽イベント「ラッキーフェス」に招待し、臨場感あふれるライブを体感してもらいました。事業費は40万円を見込みます。

【公2事業】(茨城県内の社会福祉、学術、文化、芸術などの各種団体の活動支援のための助成事業および災害被災者への支援を目的とする助成事業)

《文化事業助成》=予算417万円/前年度予算472万円

- (1) 笠間のまちと通りのこれからを考える会「門フェス」(新規)
- (2) kosodate はぐはぐ 音楽体験プログラムなど(新規)
- (3) 野口雨情赤い靴像建立記念コンサート(新規)
- (4) 竜ヶ崎子どもミュージカル第21回公演
- (5) 狂言鑑賞会
- (6) 全国こども陶芸展 in かさま
- (7) 日本の書展茨城展
- (8) 水戸市芸術祭
- (9) 茨城県芸術祭
- (10) 茨城新聞社旗争奪全国選抜高校剣道大会
- (11) 茨城県民駅伝競走大会
- (12) 外国人による日本語スピーチコンテスト
- (13) 現代茨城作家美術展
- (14) いばらき文化振興財団「みんなで楽しむオーケストラ2027」
- (15) 茨城県民オペラ協会のコンサート事業など
- (16) 水戸国際音楽祭
- (17) TEENS ROCK 2026~IN IBARAKI~
- (18) 茨城県イタリアエミリア・ロマーニャ州友好交流協会「イタリアの夕べ」

(19) 予備費 20 万円

《福祉事業助成》＝予算合計 5 5 1 万円／前年度予算 5 4 6 万円

- (1) 「歳末助け合い募金」贈呈
- (2) 子育てサロン「Mamacoco」(新規)
- (3) 茨城いのちの電話の相談事業
- (4) いばらき被害者支援センターの広報ツール作成事業
- (5) 日本オストミー協会茨城県支部の講習会・講演会事業など
- (6) 心身障害児者療育会きつつき会の小冊子作製事業
- (7) ハンセン病療養所への茨城新聞送付
- (8) 予備費 20 万円